

目指す学校像	子どものやる気を育てる日進北小・授業がたのしい日進北小
--------	-----------------------------

重点目標	1 学びの自律化に向けた授業改善の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・教育相談体制と学校行事の充実 3 コミュニティスクールの成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 一人ひとりが力を発揮し、「子どものやる気を育てる・授業が楽しい」学校をつくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査 (R3年度) ・学習に関して、やや低下傾向にある。国語に関しては「書くこと」「知識・理解」がやや低く「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関しては高い傾向がある。 ・算数は「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」「知識・技能」等全体的にやや低い。 ○市の学習状況調査 ・理科は興味関心が高いがそれに比して国語、社会、算数の学習への意欲がやや低い。 【課題】 ○全国学力学習状況調査の分析から、国語については「書くこと」、算数については「図形」「測定」のポイントを上げることが課題である。 ○算数の勉強が好きだと感じさせる授業実践が必要である。	学びの自律化に向けた情報端末活用、授業改善 学ぶ楽しさを実感できる「日進北小版 STEAMS TIME」の実践と日々の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を活用し、児童が目標を持って学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、より効果的な手立てを作成し学力の向上を図る。	①国語・算数について端末を利用した学習状況を活用し、個別に声掛けや指導ができたか。また、それによって児童のやる気が高まり、主体的に学習に取り組めたか。 ②学習状況調査の結果を分析し、手立てを講じた取組をおこない、国語・算数において2pt向上できたか。	①端末への提出を設定するなどして学習状況を活用し、個別に声掛け指導を行っている。それにより児童のやる気が高まり、主体的に学習に取り組める児童も出てきた。 ② 全国学力学習状況調査 (R4年度) では、国語、算数共に市平均正答率との比較で昨年度より国語は2ポイント、算数は6ポイント向上した。	A	① 授業での端末を利用した声掛けはできてきている。今後は主体的な学習 (スタディサプリ等) のログを利用してやる気を高めていきたい。 ② 大幅な向上がみられたが、昨年と児童が違うので今後も注視していきたい。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・評価指標を上回っているのでAで相当である。 ・授業を参観して、ICT 機器を効果的に使っている。また、STEMS タイムは、アンケート未実施であるが「主体的・対話的で深い学び」の肯定的評価は81%なのでB相当である。 ・鉛筆を使って書くことが少ないと思ったが教室を訪問してみると掲示物など手で書くものも多くあって良かった。 ・探究的な学びといっても、自分で課題を見つけるのは難しいのかもしれない。 ・STEMS のスポーツとしてさいたま市の特徴的なことは何か。
2	【現状】 ○全国学力学習状況調査の質問紙調査では「自尊感情」「学校にいくのが楽しい」の肯定的回答が市・全国を上回っている。 ○コロナによるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きく、不登校、登校渋りの児童が増加している。 ○施設設備の老朽化が各所に見られる。 【課題】 ○不登校、登校渋りの児童を減らしていくのが課題である。 ○安全点検等で上げられる危険箇所については緊急度合を鑑みて、優先順位をつけることが課題である。また、校庭の排水など大規模修繕に係るものについての実施が課題である。	「不登校・登校しぶり」傾向の児童の為の居場所づくり 安全な校内環境づくりと児童が主体となった安全に対する取組	①学習室を整備し、教職員等をできるだけ配置し、学校での居場所をつくる。 ②SC、SSWを有効に活用し、本人や保護者の心のケアを図っていく。 ③教育相談主任を中心に一人ひとりの心に寄り添う相談体制を構築するとともにケース会議を頻繁に開き、担任が抱え込むことの無いようにする。	①学習室を整備し、常時人がいる空間とすることができたか。 ②学校自己評価アンケートの心のケアに関係する項目で職員の肯定的評価が80%となったか。 ③ケース会議の開催について職員の肯定的評価が80%を越えたか。	①学習室に担当教員やボランティアスタッフをほぼ配置することができた。 ②学校自己評価アンケートの心のケアに関する項目で職員の肯定的評価は94%であった。 ③ケース会議の開催について職員の肯定的評価が97%であった。	A	① 場・人員の配置は構想通りにできた。参加する児童が固定している。登校渋りの児童の足が向くようにさらに工夫改善して支援していく。 ②SC、SSW が効果的に機能し、寄り添う支援、指導はできている。さらにきめ細かい指導に取り組み不登校児童を減らしていきたい。 ③教職員の評価は高かったが、ケース会議の回数はもう少し増やしたほうが良いと考える。	・コロナ禍による不登校については増加傾向とのことで学校の苦勞がうかがえる。評価がAでよかった。 ・安全委員会ではどの程度の目標を立て、何が評価指標なのかははっきりしない。
3	【現状】 ○本年度より学校運営協議会を立ち上げ、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく事を確認し、目指す児童像に近づくための方策を考えている。 【課題】 ○地域・家庭・学校が一体となって目指す児童像を実現するための組織作りを行う。学校運営協議会・SSNの企画作りを如何に実施していくかが課題である。 ○コミュニティスクールについて地域に発信し、地域の担い手となる子どもの育成に自分事として関わってもらうことが課題である。	地域とともにある学校として連携・協働する事業の策定と行動 コミュニティスクールについて地域に発信し、周知と理解を高める。	①学校内に地域の人が集まれる場を作り気軽に来てもらえるようにする。 ②不登校児童のための学習室に地域の人にボランティアとして参加してもらう。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現する。	①地域の人があつまる場を校内に整備できたか。 ②不登校児童等のための学習室運営に関わってもらうことができたか。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現することができたか。	①地域の人があつまる場を校内に整備できなかった。 ②不登校児童等のための学習室運営に関わってもらうことができた。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現することができた。	B	①学習室かコーディネーター室を計画したがなかなか難しいところがあった。やはり常駐するスタッフの必要性を感じた。地域の人材を検討していきたい。 ②③についてはうまくできた。持続可能な取り組みにしていきたい	・学習室に大学生のボランティアを入れたことで、年齢の近い人がいることで勇気づけられた不登校の児童がいた。 ・いろいろな配布資料に毎回コミスクについて載せるなど宣伝活動が必要である。 ・PTA ブログも1年間継続し、視聴人数が増えたので学校も継続して発信していくとよい。
4	【現状】 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができてきている。 【課題】 ○「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を全ての教員が行うことが課題である。	「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を通して学ぶ意欲を育む。	①研修組織を改編し、全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」を実践した授業を行う。 ②授業を見合うことによって新しい授業に挑戦し、授業について語り合う意識の醸成を図る。 ③HPに授業内容を掲載し、保護者・地域にも「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深めてもらう。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を年間1回以上おこなうことができたか。 ②学校自己評価アンケートで授業について語り合う風土ができていると肯定的な評価をする教員が90%であったか。 ③HPで授業について発信し、学校評価アンケートで保護者の「授業改善をしている」とする肯定的評価が80%になったか。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を年間1回以上おこなうことができた。 ②学校自己評価アンケートで授業について語り合う風土ができていると肯定的な評価をする教員が90%であった。 ③HPで授業について発信し、学校評価アンケートで保護者の「授業改善をしている」とする肯定的評価が82%であった。	A	①②③全ての教員が1回ずつの研究授業をこなして、主体的・対話的で深い学びへのイメージをつかむことができた。今年度の成果をもとにさらに求められている探究的な学びに取り組んでいく。グループでの研修によって気軽に授業し合う、気軽に授業を見あう風土はできてきた。子どものやる気を育むために楽しい授業の実践に取り組んでいく。	・教材研究に取り組み、新しい教育に取り組んでいるのでA評価で相当である。 ・発達障害についての関心が高まっているのを感じている。 ・学校職員の自尊感情を高めていくことが大切である。

